

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大牟田市立天領小学校

井川浩司郎

### 1. 単元名 「海と人との共生」

#### 2. 単元の目標

有明海や三池港の魅力と人間の生活とのつながりを学習することを通して、有明海の自然や三池港の築港によって人間の生活を豊かにしてきた反面、沿岸部の開発によって海の自然に影響を与えていることを理解することができる。 (知識・技能)

有明海や三池港と町づくりとのつながりを探求したり、有明海や三池港の魅力を生かした沿岸部開発を考えたりしながら表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)

自分たちが考えた沿岸部開発を実行するために、今の自分にできることから行動し、広めようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

私たちの住む大牟田市は、日本有数の干潟をもつ「有明海」や大牟田のまちの発展の礎となった世界文化遺産である「三池港」があり、海の自然からの恩恵や海を活用した他地域とのつながりについて、身近に感じることができる。しかし、私たちは海の自然を利用するなど、海とともに生きてきたにも関わらず、陸での開発によって海を弱らせたり、それがまた人間にとって悪影響として戻ってきたりしている現状もある。そこで本単元では、今の大牟田の海の現状を踏まえ、大牟田の海の自然を守りつつ、海を活用した湾岸都市としてのまちづくりについて考えることをねらいとしている。このことは、海を生かしたよりよい沿岸部開発について考えることを通して、主体的に今後の自分たちの生活をよりよくしていこうとする児童を育てる上で意義深いと考える。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、3年生の頃から総合的な学習の時間において海洋の学習に取り組んできている。海洋の学習に対しては今まで学習をしてきていることもあり興味・関心が高く、学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。3年生の学習では、有明海の沿岸である干潟に住む生き物について調べたり、干潟に住む生き物をこれからも守っていくために自分たちにできることを考えたりしている。4年生の学習では、有明海につながる諏訪川を沿岸部、河口部、上流部の3つに分けて水質を調査した。その調査から、沿岸部に近づくほど水質が悪くなったり、川に流れるゴミの量が増えていたりすることに気づき、川や海の環境を守るために自分たちにできることは何かを考え、行動してきている。5年生の学習では、世界遺産である三池港の成り立ちや輸出入を通じた他国との関わりについて調べ、三池港の魅力や三池港を築港した人の思いに触れることができる。そこで6年生の学習では、これまで3年生から学んできたことを基に、海と人がこれからも共生するためにはどのようにすればよいかを考え、行動することができるようにしたい。

### (3) 指導観

実際の指導に当たっては、干潟の生物や海の環境保全、三池港の歴史など今までに学習したことを生かして、私たちの生活も海の環境ももっと豊かになれるような有明海や三池港の魅力を生かした沿岸部開発について考え、自分たちにできることから行動することができるようにする。本單元においてまず導入では、沿岸部の開発によって私たちの生活が豊かになってきた反面、海の干潟が削られていることに気づかせるために、今から100年以上前の大牟田市の沿岸部の様子と今の沿岸部の様子を地図を使って比較する。その際、今までに干潟の生物や海の環境保全、三池港の魅力などについて学習してきたことも想起させ、私たちの生活も海の環境も豊かにできるような町づくりについて考えることへの課題意識を高める。次に、沿岸部の現状を知るために、大牟田市役所の方々に話を聞き、有明海や三池港の魅力を生かした沿岸部開発について自分たちに取り組みそうなことについて話し合う。次に、話し合ったことをもとに自分たちにできることから行動をしたり、沿岸部開発についてプレゼンをしたりする。また、他校の児童と自分たちの行動プランについて交流を行い、自分たちの考えを広げたり深めたりし、よりよい行動化へとつなげていく。そして、学習の振り返りを行い、自分たちの行動の価値を実感したり、これからの行動について考えたりする。

### 4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①以前の有明海の様子と今の様子を比較し、沿岸部の開発によって海の自然に影響を与えていることを理解できている。 ②沿岸部の現状について理解している。	① 有明海や三池港の魅力を生かした沿岸部開発について考え、表現することができる。 ② 学んだり、調べたりして学んだ知識をもとに、言葉や図、絵などを用いてまとめることができる。	①自分たちにできる沿岸部開発について意欲的に考えることができる。 ②自分たちが考えた沿岸部開発プランをもとに、今の自分から行動することができる。

### 5. ESD との関連

#### (1) 学習を通して主に育てたい ESD の視点

【相互性】・・・私たちの生活が海の環境の変化に大きな影響を与えているということ。

【連携性】・・・これからは海に直接関わる人だけが努力するのではなく、私たち一人一人が海の環境について考えて努力していく必要があること。

【責任性】・・・私たちが海の環境に対する行動意識を変えていくことが何よりも大切であること。

#### (2) 学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

海の環境に配慮した行動をしているか、自分の行動を見つめ直す。

- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）  
「人々の生活も海の環境も豊かになるにはどうすればよいか？」について考える。
- ・コミュニケーションを行う力  
私たちの生活と海の環境づくりについて、市役所の方や地域の方との交流を通して考えを聞いたり、友達と意見交流を通して考えを広げたり深めたりする。
- ・他者と協力する態度  
自分たちだけで考えるのではなく、地域の人々と協力して、海の環境を利用したまちづくりについて考える。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正  
これからの海の環境を守るために、海への負担をできる限り減らそうとすることが大切である。
- ・自然環境、生態系の保全を重視する  
私たちの豊かさばかり求めるのではなく、海の環境に配慮した豊かさを求めることが大切である。

(4) 達成が期待される SDG s

- 1 1 持続可能な都市
- 1 4 海洋資源

6. 展開の概要（全 2 1 時間）

時間	学習活動	●学習への支援	○評価・備考
	<p>1 本単元の学習課題をつかむ。</p> <p>○ 沿岸部の地図の比較や今までの学習を想起し、学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">       100年以上前の沿岸部の様子     </div> <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">⇔</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">       今の沿岸部の様子     </div> <p>・沿岸の所に工場や港ができているね。 沿岸の近くが発展しているのが分かるね。</p> <p>・海の干潟の割合が減っているよ。海の生き物たちは大丈夫なのかな。</p> <p>・このまま開発を続けていいのかな。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">       私たちの生活も海の環境も豊かにするために、自分たちにできることを考えよう。     </div>	<p>○ 本単元の学習課題をつかませるために、100年以上前の明治時代の沿岸部の様子と今の沿岸部の様子を表した地図を比較させ、開発によって干潟が減少していることに気づかせる。</p> <p>○ 環境の問題や生物の減少に目を向けさせるために、これまでに行った干潟の生き物調べや水質検査の学習を想起させる。</p>	<p>ア① (知・技)</p>

<p>2 今の沿岸部の現状を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大牟田市役所の港振興室の方々をお招きし、三池港を含む沿岸部の現状について話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟の生き物や漁でとれる魚の数が減ってきているんだね。海の環境を守っていく必要があるね。</li> <li>・三池港を訪れる人が減ってきているんだな。 三池港の魅力をもっとたくさんの人に知って欲しいな。</li> <li>・市役所の方々は様々な取り組みをしているんだね。私たちにもできることはないかな。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海の今の沿岸部の現状を知るために、大牟田市役所の方々をお招きし、三池港周辺の沿岸部の課題や取り組みについて話して貰う。</li> </ul>	<p>ア② (知・技)</p>
<p>3 自分たちにできることを考え、話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海や三池港の魅力を生かした沿岸部開発について、自分たちにできることを考え、話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>海を守り生活も豊かにするために</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px auto;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>三池港の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三池港を紹介するパンフレットを作る。</li> <li>・三池港の模型を作って、紹介する。など</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>環境を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三池港周辺の清掃活動に取り組む。</li> <li>・ポイ捨てをやめるよう呼びかけるポスターを作って貼る。など</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>有明海の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟の生き物や食べ物を紹介するリーフレット作り。</li> <li>・有明海の干潟を利用した栽培についてプレゼンする。</li> </ul> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三池港の魅力を紹介するパンフレットづくりは自分たちで取り組みそうだな。</li> <li>・どの取り組みが自分たちで実際にできそうかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちにできることについて考えさせるために、3つの観点(①三池港の魅力を伝える。②海の環境を守る③有明海の魅力伝える)に分けて、グループごとに自分たちにできることを話し合わせる。</li> </ul>	<p>ウ① (主体的) イ② (思判表)</p> <p style="margin-top: 200px;">イ① (思判表) ウ② (主体的)</p>

	<p>4 自分たちにできることを行動化する。</p> <p>○ 自分たちにできることについて話し合ったことをもとに、グループに分けて行動化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは三池港の魅力を紹介するパンフレットを作って、観光センターに置いて貰おうかな。</li> <li>・私たちは、三池港周辺の清掃活動に取り組もうかな。</li> </ul>	<p>○ 自分たちにできることについて話し合ったことを行動化するために、つながりを持ってそうな関係機関を考え、行動を起こしていく。</p>	
	<p>5 学習の振り返りを行う。</p> <p>○ 自分たちが行動化したことを、グループごとに発表し合い、その成果を確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの人に有明海の魅力を知って貰えてよかったな。これからももっと広めていこう。</li> <li>・これからも海の環境を守る取り組みを自分にできることから続けていこう。</li> </ul>	<p>○ 今後の生活へと連続発展させるために、自分たちが行った活動を紹介させ合い、そのよさを価値付けしていく。</p>	<p>イ② (思判表)</p>